

令和元・2・3年度

## 「養護教諭が中心となって進める教職員研修」

### 1 研究テーマの設定理由

複雑・多様化した現代的健康課題の解決に向けては、専門的な視点での対応が必要とされ、それを他の教職員と共通理解できるように、教職員研修などにおいて養護教諭が専門性を活かし中心的な役割を果たすことが期待されていると感じる。特に、学校管理下において傷病、事件・事故、災害などが発生した場合には、速やかに適切な対応ができるようにしていかなければならない。子どもの命を守りきるために、すべての教職員が応急手当に関する基本的な知識や技術を習得し対応できるようになることや、疾病管理、メンタルヘルス、薬物乱用防止や性に関する指導についても同じ情報、同じ知識で研修を行えるようになるためにも知見を深める必要がある。また、働き方改革などにより研修を行う時間などに制約がある現在、専門性を活かしながらも研修時間・内容・資料・進め方などを工夫し、効果的な教職員研修について研究していきたいと考えた。

### 2 研究経過・研究方法・研究内容

#### (1) 令和元年度

まず、テーマ、テーマ設定理由に基づき、過去に実施したことがある、または、今後実施が必要と思われる研修内容、すでに実施した研修の感想、養護教諭が進める研修に対する熱い思いや工夫について交流した。

#### <実施したことがある研修内容>

- ・食物アレルギー  
(エピペンやアナフィラキシー)
- ・嘔吐物処理
- ・熱中症
- ・色覚
- ・性に関する指導
- ・LGBT
- ・虐待

など

#### <実施が必要と思われる研修内容>

- ・健康観察
- ・救急処置
- ・情報モラルに関わる指導
- ・福祉制度(療育手帳など)

など

<研修を実施した感想>

- ・研修後の評価が大事である。
- ・同じ内容でも毎年繰り返し実施が必要である。
- ・生徒指導部や総合育成支援部など関係する部と合同で計画・実施を検討する。
- ・クイズ形式の研修で興味や思考を高める。
- ・日本スポーツ振興センターに挙がっている事例をうまく活用したい。
- ・研修前に課題を提示しておき、疑問をもって研修を受けてもらう。
- ・時間確保が難しいので、学年会の機会など15分程度の研修を検討したい。
- ・ロールプレイや机上訓練など体験できる研修は効果的である。

など

交流を通して、養護教諭は教職員研修の必要性を感じる一方で、多くの悩み・困り・課題などを抱えていることがわかった。

<研修実施に対する悩み・困り・課題など>

- ・教職員の知識や意識，意欲の差がある。
- ・情報管理や時間の確保，講師となる適切な人材の確保と謝礼金の準備が難しい。
- ・効果的な研修の内容の構築や研修方法，適切な資料作成に関する知識不足で，準備が難しい。
- ・相手に伝わりやすい話し方，伝える内容の精選，アナウンスカに自信がない。
- ・職場で一人の専門職による不安があり，自分が中心となって教職員研修を進める自信がない。
- ・小学校における性に関する指導，養護教諭不在時の救急対応，中学校におけるアレルギー対応，健康面や生徒指導上で気にかけている子どもに関する内容，メンタルヘルス，スクールソーシャルワーカーとの連携，虐待，福祉制度や保護者対応など教員の困りに関する内容を取り上げたい。

そこで、岩本順香副主任指導主事による講義「養護教諭に期待される研修とは」を受け、以下の知見を深めた。抱えている課題などの解消につながり、養護教諭が進める教職員研修の方向性を考え、思いを深められる機会となった。

<講義の内容>

- ・養護教諭の専門性を活かした研修について
- ・京都市の勧める教職員研修について
- ・教職員に求められている資質能力や目的，相手意識や構成，資料，評価まで踏まえた研修について
- ・令和元年度より，体育健康教育室が進めている「学校安全総合支援事業」について
- ・研修企画メモの活用方法について

など

次に、以下の点を考慮しながら、研修項目を選定した。

<研修項目の選定で考慮した点>

- ・養護教諭がすでに中心となって進めていて、希望が多い項目であること
- ・テーマ設定理由と研究内容にある「全ての教職員が救急処置の知識や技能を習得し、疾病管理やメンタルヘルス、薬物乱用防止や性に関する指導などについても知見を深める必要がある」の視点で必要な項目であること



<選定した研修項目>

- ①疾患の管理と予防
- ②救急処置
- ③感染症対応
- ④多様な性についての理解
- ⑤生活習慣の確立（睡眠について）

選定した研修項目でグループに分かれ、具体的に取り上げたい内容や種類について研修企画メモを用いて交流した。また、研修内容を考える際に大事にしたいことを共通理解した上で研究を進めた。

<共通理解事項>

- ・採用年数や研修実施経験を問わず、どの養護教諭もすぐにできる、すぐに使える研修内容の設定と資料の作成をすること
- ・意欲的に参加してもらえるように、特によく取り扱うテーマでは研修の持ち方を工夫すること
- ・各校の実態に合わせて手直しできる資料を作成すること
- ・30分前後のショート研修と60分前後のロング研修の2パターンの研究内容を考案すること、または、配布資料を用意すること
- ・評価項目を提示すること

## (2) 令和2, 3年度

令和元年度、各グループで作成した研修資料などを用いて、各校で実践・評価した。研修は実施したら終わりではなく、評価して次に活かすことが大事であることを共通認識の上、研修レジュメに入れた評価項目を用いて参加した教職員の意見を集約し、実施した研究委員の評価を含めて考察した。また、時折、全研究委員で各グループの研修内容・資料を見直し、繰り返し検討しながら改善を重ねた。評価や考察を踏まえ、研修を見直したことで、よりよい研修を考えることができた。

今回の研究においては、グループに分かれて様々な研修を考え、実践・評価を進めてきたので、グループごとに研究経過・研究内容及び成果と課題についてまとめた。